

保健体育科学習指導案

令和7年1月29日(水)

第6校時 15時00分～15時50分

2年C組 39名

指導者 木梨 祐司

- 1 単元名 仲間と協力してソフトボールの練習やゲームを成立させよう
～簡易ゲームを通じた競技の特性の習得～
球技:ベースボール型(ソフトボール)

2 単元設定の理由

(1)教材について

・球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ソフトボールは、ベースボール型に分類され、身体や用具の操作と打撃と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの点数を競い合うゲームである。また、ベースボール型の学習においては、「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせで行うことから、巧緻性や敏捷性を高めることができる。ボールや用具の操作とボールを持たない時の動きに着目させ、学習に取り組ませることが必要である。

・運動の基本動作を組み合わせで行うことやルールとの関係から、普段の運動の中で取り組みにくさを感じさせる教材ではある。しかし、身体や用具の操作などに自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりする場面を設定しやすい教材でもある。チームで協力し、攻撃や守備で連携する必要があるため、チームプレイや作戦を工夫することにもつながる。

・球技に積極的に取り組むとともに、ペアやグループ活動などを通して、仲間の練習を補助したり、アドバイスを送ったりすることで、仲間の学習を援助しようとすることができる。これらのことから、仲間とともに楽しみながら課題解決に向かおうとする学習者の姿を養う上で価値がある。

(2)学習者について

・本学級の学習者の体力テストの結果より、昨年度の大分県平均記録を50m走とハンドボール投げにおいて男女ともに大分県平均記録を下回っている。部活動や習い事などで運動経験がある学習者は一定数いるものの、保健体育の授業の様子からも様々な動作において動きにぎこちなさを感じる人が多い。小学校までにティーボールやソフトボールなどは既習しているが、「捕る」「投げる」においては苦手を感じる様子も見られる。

・これまでの活動の様子から、仲間への声かけや交流活動における積極的な意見の発表など進んで仲間とともに学習する様子が多く見られた。一方で、具体的な助言や仲間へのアドバイスなどを自分から伝えることに対して遠慮しがちな姿も見られた。「発信」と「受信」は学年における課題として指導を継続している。

・アンケートでは、「運動が好きですか」という問いに、90%以上の学習者が「好き」「やや好き」と回答している。次に、「体育の授業以外で積極的に運動に取り組んでいる」という問いには、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学習者が88%となった。運動に対して好意的な学習者は多いが、運動経験の乏しさから苦手意識が根強い意見も少なからずある。ただし、実際にソフトボールの学習に取り組む場面では、運動の楽しさに触れたり、得点を取れることの喜びを感じたりするなど積極的に取り組もうとする姿も見られるようになった。

(3)指導について

・指導においては、練習やゲームのルールや行い方を工夫することで、誰もがソフトボールを楽しむことができるということを理解させたい。そのために、少人数の練習で「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった基本動作を繰り返し練習し、運動の楽しさが実感できるように活動を設定する。また、グループで協力して活動をする中で、技能に対して得意な生徒も、苦手を感じる生徒も共に活動ができるようにする。ルールを工夫することで運動の特性に触れつつ、技能の習得にもつながるような簡易ゲームからメインコートを用いたゲームを通して、種目への理解度の向上を図る。

・今回は男女別の4～5人班で活動を進める。ワークシートの資料やグループ練習などを通して、お互いの課題や出来映えを伝える場面を持つ。ワークシートにはグループの仲間の「Goodポイント」や「Betterポイント」を記述させ、仲間伝えるための視点を明確にする。ファインプレーやフェアなプレイを見つけて伝えることにも、グループ練習を継続して取り組むことによって、お互いの動きに注視する場面を意識づけさせたい。

・積極的に学習に取り組めるように、ボールやバットはティーボール用の柔らかい素材を使用する。それによって、ボールに対する恐怖心を和らげることができる。安全面に配慮をして、バットの置き方もルールに組み込む。また、チームで継続して活動をする中で、グループ練習をスムーズに実施し、「チームミーティング」を通してお互いの学習を援助できるように指導する。ワークシートや観察シートを用いながら学習評価へとつなげていく。

様式2 単元プランシート

単元プランシート(保健体育科 2年)

実施時期12月

単元名		球技(ベースボール型(ソフトボール))
単元の目標		仲間と協力して、ソフトボールの練習やゲームを成立させよう ～簡易ゲームを通した競技の特性の習得～
評価 規 準	知・技	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。(知) ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。(知) ①投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを振りぬくことができる。(技) ②ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。(技) ③投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げることができる。
	思・判・表	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。
	主体	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1)	ソフトボールの特性を理解し、ボールの送球を中心とした活動からチーム編成を行う。また、めあての達成に向けて簡易的な練習を実践する。 ⇒自身のこれまでの習得状況を理解する。	①(知) ワークシート		
2次 (2～8)	守備からのボールの捕球や送球、場面設定に応じたバッティング練習などを通して、用具の使用や安全に気をつけた簡易ゲームを実践する。その際に、技能につまずきを感じている仲間に課題の解決に向けた活動を伝え合わせる。 ⇒提示されたポイントをおさえて練習をできるように提示する。また、技能の習得状況のスキルチェックを行う。	①②③(技) (2～7時) 観察 測定 ワークシート ②(知) (6時) チェックシート	①(5, 8時) 観察 ワークシート	①(2～4時) ②(5時) 観察 ワークシート
3次 (9～12)	ソフトボールのゲームを通して、技能面だけでなく、フェアなプレイをしている人や、全力で取り組んでいる人などを見付け、お互いに伝え合う場面を認識させる。 ⇒仲間の良さを見付けられるように、視点を明確にして提示する。ゲームの安全な進行を目指す。	②③(技) (12時) 観察 測定	②(9, 10時) ワークシート 観察	①(10, 11時) 観察 ワークシート

評価基準		
	B	A
①	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	提示された動きのポイントやつまずきの事例に留まらず、仲間の課題や出来映えに対して動きを交えたり、わかりやすく伝えたりしている。
②	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、具体的な場面を取り上げて、理由を添えて他者に伝えている。

指導と評価の計画

		1	2	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12	
学習評価の流れ	10	オリエンテーション キャッチボール チームケースバッティング編成	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動・補強運動											
	20		キャッチボール（ノーマルスロー、バウンドキャッチ、ロングスロー）								キャッチボール（チーム練習）			
	30		ケースバッティング ↓走塁ありへ段階上げ	ケースバッティング （走塁なし⇒走塁あり）		① ポジション等説明→実施 メインコートゲーム	チェッ ス ス キ ル	ケースバッティング （走塁なし⇒走塁あり）		② 学級ソフトボール大会 残塁ルールの説明 メインコートゲーム				
	40			ミニゲーム ルール説明 ① アウトゾーン ② 1～4点得点制 ③ 投手は攻撃側 ④ 3球で終了			ミニゲーム ルール説明 ① フォースアウトルール ② 1～4点得点制 ③ 投手は攻撃側 ④ 3球で終了							
	50		整理運動・学習の振り返り・次時の確認											
評価機会	知識	①					②							
	技能		②	③	①			③				①	②	
	思・判・表					①			①	②	②			
	態度		①	①	①	②						①		

具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
ソフトボールの特性を知り、技能を構成する運動動作について学習することで、運動の楽しさなどを理解すること。	投球に対して平行に立ち、肩より高い位置にバットを構えて、振りぬくこと。 ① 投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを振りぬくことができる。 転がるボールを待たずに正面に回り込んで、打球を捕ること。 ② ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。 腕を後方に引きながら、投げ手と反対側の足を踏み出して、体重移動をさせながら狙った方向にボールを投げる。 ③ 投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げる。	成功例、つまずき例などの事例や、キャッチボールやバッティング、守備のポイントを示し、仲間の動きと比較し、伝えること。 ① 提示された動きのポイントやつまずき事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 仲間の良いところを見付ける視点を明確にし、練習やゲームを通して、仲間の良い取り組みを見付けることで、お互いの良さを理由を添えて伝える。 ② 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	球技の学習の特性に触れ、その楽しさを感じることで、個人や集団の活動において積極的に取り組むこと。 ① 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 仲間の学習を援助することは、練習を補助したり、助言したりすることによって、ともに学びに向かう姿勢を持たせること。 ② 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(9/12)

(2) 題材 球技:ベースボール型(ソフトボール)

(3) 本時のねらい

練習やミニゲームを通して、仲間のファインプレーやフェアなプレーを見つけることで、チームの良いところを伝えあうことができようになる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 本時の学習内容を確認する。	○挨拶, 健康観察, 準備体操を行わせる。 ○補強運動を行わせる。	
仲間のファインプレーやフェアなプレーを見つけて、チームの良いところを伝えられるようになる。			
5	2. 本時の課題を確認して、視点を明確にする。	課題「仲間のファインプレーやフェアなプレーとはどんな場面だろうか」 ○今日の授業の課題を共有させる ・前時のグッドポイントとベターポイントについて振り返らせる。 ・どんなプレーがファインプレーとフェアなプレーかを共通理解させる。 〈考えられる答え〉 ・難しいプレーができる(ファインプレー) ・スポーツマンシップにのっとる(フェアなプレー) ○練習やゲームの場面でも積極的に伝え合うことを確認する。	
15	3. チーム練習に取り組む。	○道具の準備をし、所定の位置でチーム練習を始めさせる。(バット, コーン, マーカーなど) ・キャッチボール 基本的な技能として「投げる」「捕る」を練習する。 ・ケースバッティング ピッチャー, キャッチャー, バッター, 守備の役割分担をする。 安全に留意して行わせる。 ○終了後にミニゲームのセッティングをさせる。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレーなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 思判表② (ワークシート) (観察チェック)
15	4. 2チームでミニゲームを行う。	○ミニゲームのルールを確認する。 ・フォースアウト, 道具の管理などを伝える。 ・安全に留意して行うことを確認する。 ○攻守の切り替えなどをすばやくさせる。 ○終了後は片づけをして、チームで整列する。	
10	5. チームミーティング, 振り返り, 整理運動, 次時の予告を行う。	○チームミーティングで本時の記録と見つけたことを伝え合わせる。 ・本時の記録を取り、チームで伝え合わせる。 ・自身の伝え方を振り返らせる。	
		まとめ(ファインプレーやフェアなプレーを伝えるために) ・まわりの人の動きや声かけがわかるようによく見ること ・練習やゲームなどに真剣に参加する など ○整理運動, 次時の予告をする。	

(5) 本時の評価基準

評価基準	
B	A
練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレーなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレーなどのよい取組を見付け、具体的な場面を取り上げて、理由を添えて他者に伝えている。

(6) 学習記録計画(屋外のため掲示用ホワイトボードなどを使用)

めあて 仲間のファインプレーやフェアなプレイを見つけて、
チームの良いところを見つけて伝えよう。

課題 「仲間のファインプレーやフェアなプレイとは
どんな場面だろうか」

個人ファイル

・ワークシート

ファインプレー

- ・ベースカバーをしている(守)
- ・送球先の指示をしている(守)
- ・1点でも多く取れるように工夫をしている(攻) など

フェアなプレー

- ・判定を正しく伝えている
- ・仲間をはげましたり、相手のよいプレーを賞賛する など

授業者が提示するものと学
習者から出て来るものを共
有する。